



# 留学生と 交流 してみよう

世界78カ国・地域から集まってきた2103名の留学生が学び（2019年5月1日現在）、毎年多くの塾生が留学制度を利用している慶應義塾。塾生たちは国際交流体験を通して、グローバルな視野を養い、多様性についての認識を深めている。  
今回の特集では慶應義塾におけるさまざまな国際交流のカタチを紹介しよう。

## 昨今の留学事情



常任理事  
国際センター所長  
理工学部 教授  
おびしんのすけ  
小尾晋之介

「留学」について大学生の保護者の方の多くが抱いている過去のイメージは、もしかすると現状とはかなり異なるものかもしれません。

まず、留学をする学生の数です。経済協力開発機構（OECD）による2016年時点の統計によれば、全世界で留学生の数は約500万人。1999年には約200万人、1990年には約100万人でしたので、自国を離れて海外で学ぶ若者の数は毎年数パーセントの割合で増加を続けています。日本に来る留学生数も、昨年5月現在で約30万人でした。10万人を超えた2003年から約3倍になりました（日本学生支援機構調べ）。

また、留学の形態も時代とともに変遷を続けています。かつての留学は準備の時点からすべて学生個人による手続きが

主体であったと思います。近年は、大学のカリキュラムの一部として留学や国外研修が系統的に取り入れられているケースが割合として増えています。こちらも日本学生支援機構の最新のまとめによれば、大学の海外協定または協定外のプログラムにより国外活動に参加する学生数は2017年度に10万人を超え、調査を開始した2003年度の1万5000人あまりから7倍近くに増えました。

このように「留学の姿」は世界のグローバル化とともに大きく変遷していると言えますが、大学生が留学で学べることに本質にも変化があるのでしょうか？

インターネットが普及して20年以上が過ぎました。今の大学生たちは生まれたときから世界とネットを介してつながっていて、日常的に国外の情報に触れることが可能です。わざわざ日本から出ていくことの必要がないと考えるのも当然かもしれません。しかし、留学は外国のことを知ることだけが目的ではありません。

住み慣れた自分の国から外に出て留学生活を営むことは、インターネットはもちろん、観光旅行でも得られない貴重な経験の場を提供してくれます。留学を通

じて学んだことのひとつとして経験者が異口同音に唱えるのは、日本を外から見ることの大事さです。それは、何気ない習慣のことだったり、日本社会の成り立ちだったり、ユニークな歴史や文化のことだったりさまざまですが、日本にいるだけでは知ることのできない自分たちの姿です。

かつては、いったん海外に出ると、日本の家族友人との連絡手段は郵便か国際電話しかなく、日常から隔離された状態で自分と向き合う時間がたっぷりありました。現在はインターネットでつながってしまう功罪もありますが、日本の生活をそのまま持ち出すことなく、外国でしかできない経験を求めて留学の時間を意識のあるものにしてほしいと思います。

（※2019年10月1日付で常任理事に就任）

慶應義塾大学は、現在世界の300以上の大学・高等教育機関等と協定を締結しています。

詳細は下記 Web サイトをご確認ください。

URL [http://www.ic.keio.ac.jp/aboutic/partner\\_univ.html](http://www.ic.keio.ac.jp/aboutic/partner_univ.html)

## 学内での国際交流

### ランチタイムに国際交流

#### Lunch@Global Lounge

三田キャンパス南校舎1階にある「グローバルラウンジ」は、塾生と留学生が日常的に交流できる明るい雰囲気オープンスペース。世界中の協定校を地図やリスト、写真で紹介しているほか、各協定校や留学に関する情報収集が可能です。

このグローバルラウンジで、平日のお昼休みに開催しているのが「Lunch@Global Lounge」です。留学生と塾生と一緒に昼食をとりながら交流するイベント「言語Day」では、各国のさまざまな言語で会話し、多様な文化を知ることができます。その他にも、KOSMIRCを中心にもさまざまなイベントを定期的に開催していますので、詳細は国際センターのWebサイトをご参照ください。



参加申し込みなどは一切不要で、途中参加・途中退出も可能。お昼ご飯を持って気軽に参加してください。

### 研究会で合同ケースメソッド

今年6月、商学部の高橋郁夫ゼミと高田英亮ゼミは、スタディトリップで来日したエラスムス大学ロッテルダム（オランダ）の学生と合同ケースメソッドを実施しました。

塾生とエラスムス大学ロッテルダムの学生で混合グループをつくり、スウェーデン発祥の世界的家具量販店「IKEA」の日本進出や今後の戦略などをテーマにディスカッションを行い、最後にグループごとの提案を発表しました。

意見交換を通してヨーロッパと日本のビジネス戦略や、その背景にある文化の違いも明らかになりました。「物事を考えるにあたって、多角的な視点の重要性を実感した」と参加した塾生の感想も聞かれました。

終了後には南校舎7階テラスで集合写真を撮影し、お互いの親交を深めました。



### 国際学生寮RA（レジデント・アシスタント）に聞きました



大森学生寮RA  
法学部法律学科3年  
高橋翔汰君  
たかはし しょうた

「国際学生寮では日常的に留学生と交流することが可能で、共同風呂や食堂、また談話室がある空間では、気軽に声をかけられています。寮のイベントや寮の外でも一緒に時間を過ごすことで、半年といった短期間の滞在である留学生とも関係を深めることができます。寮で暮らす留学生は日本人と積極的に交流したい方が多く、語学力問わず日本人学生と繋がりがやすいと感じます。私は留学生が少しでも日本人と交流しやすくなるよう土台を作り、懸け橋となることを目指すRAとしての活動に、やりがいを感じています」



## 留学生支援団体

### 国際センター 塾生機構 KOSMIC

「KOSMIC」は国際センターの学生スタッフとして留学生支援活動を行っています。毎学期新たに慶應義塾に来る留学生が日本での生活に慣れ、学生生活を最大限に楽しめるように手伝っています。英語でのキャンパスツアーやサークルのカウンセリング、日本の観光名所の案内などが主な活動です。活動の中で自分の語学力を伸ばしながら留学生の手伝いができることはKOSMICの大きな魅力です。留学生支援を志願し集まってくる新入部員は毎年100名を超え、彼らもさまざまな背景を持っています。鎌倉観光や浅草めぐりでは少人数グループに分かれて活動し、留学生一人ひとりと親密な関係を築くことができます。



仲良くなった留学生の母国を訪問し通訳や観光案内をしてもらう中で、その国の文化や価値観に興味を深める部員も多くなります。KOSMICに入っていないけれど得られなかった経験の一つとして、韓国からの留学生が兵役に行く際、部員みんな

なで盛大に送り出すことが挙げられます。平和な自国や当たり前前に大学へ通っている環境のありがたさを再認識させられます。三田祭や12月に行われるスピーチコンテストを通じて、より多くの人にKOSMICの活動を知ってもらい、留学生との交流を持ってみたいと思う塾生を増やすことが今後の目標です。



### 塾員による支援団体 Keio Welcome Net

Keio Welcome Netは、海外からの訪問研究者と留学生、またその家族の日常生活をサポートする、塾員によるボランティアグループで、国際センターから留学生支援団体の一つとして公認されています。

日本の家庭料理の講習会や浴衣を着るイベントなどの開催、また電化製品や家庭用品等の調達、病院への付き添いなど、日本での生活に慣れていない人たちにさまざまなサポートを行っています。

ボランティアメンバーは、かつて海外に赴任・滞在した塾員が中心で、自分自身が現地の方に助けてもらった恩を日本に来た留学生をサポートすることで返したいと考えてこの団体をスタートさせました。

## 慶應義塾が提供する各種プログラム

### ●短期海外研修プログラム(夏季・春季)

夏休み・春休み期間中にさまざまな短期プログラムを実施しています。単なる語学研修だけではなく、現地の大学で学ぶ雰囲気や体験できるのが魅力。将来長期の留学を考えている人にもおすすめです。

#### ▶ 短期海外研修プログラム

[夏季] [URL](http://www.ic.keio.ac.jp/keio_student/short_prog/summer_prog_index.html) http://www.ic.keio.ac.jp/keio\_student/short\_prog/summer\_prog\_index.html

[春季] [URL](http://www.ic.keio.ac.jp/keio_student/short_prog/spring_prog_index.html) http://www.ic.keio.ac.jp/keio\_student/short\_prog/spring\_prog\_index.html

#### ▶ ダブルディグリープログラム

[URL](https://www.keio.ac.jp/ja/academics/international/double-degree/) https://www.keio.ac.jp/ja/academics/international/double-degree/

#### ▶ 短期日本学講座 (KJSP)

[URL](http://www.ic.keio.ac.jp/keio_student/short_prog/spring/kjsp.html) http://www.ic.keio.ac.jp/keio\_student/short\_prog/spring/kjsp.html

#### ▶ 慶應ともだちプログラム

[URL](http://www.ic.keio.ac.jp/keio_student/campusex/buddyprogramfall2019.html) http://www.ic.keio.ac.jp/keio\_student/campusex/buddyprogramfall2019.html

### ●ダブルディグリープログラム

慶應義塾大学と海外の協定校の両方で学び、修了時に2つの学位を取得することができるプログラムです。現在、世界トップレベルの大学と経済・商・理工学部のほか、8つの研究科でダブルディグリープログラムを実施しています。

### ●短期日本学講座(KJSP)

留学生と塾生が英語で共に学ぶ2週間の短期プログラムです。日本の政治・経済・文化などに関する講義を留学生と一緒にすべて英語で受講し、1泊旅行等も予定しています。日本にいながら英語漬けの2週間を送ることができます。

# 派遣交換留学経験者 座談会

派遣先：ブラウン大学（米国・プロビデンス）



オリエンテーションで仲良くなった友人と



文学部  
教育学専攻4年  
井上さら君



派遣交換留学を経験した  
井上さら君、山内涼史君、前山真也君の3名に  
留学先での生活や学び、  
留学後の自分の変化などについて語ってもらった。

## 留学の動機や経緯について教えてください。

**山内** きっかけは志木高校時代の授業です。先生から中国の政治・外交の話聞いて興味を持ちました。それ以来、中国への留学を考えるようになり、休学せずに4年間で卒業できる派遣交換留学制度をぜひ利用しようと思いました。

**井上** 小学校2年からニューヨークやバンクーバーでの留学体験があります。最初は現地の子にからかわれたりしましたが、

それでも楽しかった。その後、高校3年間もカナダで過ごし、そのまま米国の大学への進学も考えましたが、日本の教員免許状を取得するために慶應義塾に入学。学部で日米の比較教育学を学んでいることから、米国への留学を決めました。

**前山** 留学を考えるようになったきっかけは、浪人生活の気分転換で京都へ一人旅したこと。泊まったゲストハウスで海外からの観光客と知り合い、異文化交流の楽しさを実感しました。大学1年生のときにボランティアでアイスランドに行ったのが初めての海外経験です。その後、インテンシブコースで学んだスペイン語が面白くなり、学部での学びを深めるためにもバルセロナのビジネススクールへの留学を決めました。

**留学前に準備しなくてはならないことはありましたか？**

**山内** まず語学力です。中国語は1年生から週4回のインテンシブコースで学びました。最初は難しい発音を集中して習得しました。後から考えるとそれが良かったですね。

**井上** 留学のための英語力といえば「TOEFL」などが指標となりますが、実際に海外の大学で求められる英語力については、高校での留学経験のある私でも多少不安がありました。

**山内** 私が留学した復旦大学は、留学生に中国語の語学検定「HSK」で最高ランクの6級を要求しています。それをクリアして留学できましたが、当初は授業についていくのも四苦八苦でしたね。

**前山** 私の場合は語学能力要件として英語とスペイン語の両方が必要でしたが、語学学習の楽しさに目覚めていたのでそれほど苦労は感じませんでした。

**留学中の生活や授業について教えてください。**

**山内** 留学中は学生寮で暮らしました。マレーシアや韓国からの留学生と一緒に4人部屋でした。食事は主に学生食堂で、中国料理だけでなく日本の牛丼やラーメンもありました。授業は中国の政治・外交を中心に歴史や民族など幅広く学び、「中国人の視点」に対する理解を深めました。また、週末を利用した中

## 留学生と交流してみよう

派遣先: ESADEビジネススクール(スペイン・バルセロナ)



バルセロナで開かれたマラソン大会にて



前山真也君  
商学部4年  
まえやましんや

派遣先: 復旦大学(中国・上海)



山内涼史君  
法学部  
政治学科4年  
やまうちりょうじ

国各地への旅行も中国を知る重要な機会でした。あるとき、日本に批判的な意見を持つ中国人と夜を徹して議論したこともあります。彼は僕が帰国後、旅行で日本を訪ねてくれました。再会時には日本への誤解が解けたようで、うれしかったですね。

井上 私も学生寮でした。平日は午前3時頃まで大学図書館にこもって勉強するようなハードな生活でしたが、週末はパーティーやイベント三昧。欧米の学生はメリハリがはっきりしています。週末に何度か電車一本で行けるボストンに遊びに行っただこともありました。ブラウン大学はリベラルアーツ教育ですので、スペイン語、アート、人種教育など幅広い科目が履修できます。専門の教育学分野では「東アジアの教育」というテーマで、日本と米国の子育ての違いについて保育園や幼稚園でのリサーチを行いながら研究しました。また、ボランティア活動を通じたホームレスと人種問題の研究も手がけました。

前山 私の留学先はバルセロナ。ネットで安いシェアハウスを探

して自分で契約しました。ワンフロアに6人、ヨーロッパ、アジア、アフリカや中南米からの人たちと生活し、いろいろありましたが(笑)、楽しかったですよ。自炊もしましたが、安くておいしいタパスなど外食も楽しめました。ビジネススクールではビジネス、マーケティング、ファイナンス分野を中心にコミュニケーション論やリーダーシップ論などの科目を履修し、グローバルなビジネス展開について学びました。また、絵画や闘牛などスペインの芸術・文化に関する授業も履修しました。

井上 ビジネススクールでも授業や課題などはやはり苦労されましたか?

前山 実は井上さんほどハードではなく、平日でも比較的自由時間がありました。有名なカンブ・ノウ・スタジアムでサッカー観戦したことがいい思い出ですし、週末を使ってフランス、ドイツ、イタリアなどヨーロッパの主要国は一通り旅行しました。留学を通して得られたこと、自分の変化は?

山内 自分自身のマインドがず

いぶん変わりました。中国と中国人への理解が深まったことはもちろん、失敗を恐れず積極的に行動する姿勢が身についたと思います。卒業後は、中国語力と留学経験を生かして中国とのビジネスを手がける企業で働きます。

前山 私も異国という環境の中で自分自身と向き合った経験が良かったと思っています。これまで、あえてやろうとしなかったことに挑戦するよう自分を仕向けるようになりました。もちろん語学力の向上も大きなメリット。留学前は初心者レベルだったスペイン語がビジネスで使える中上級レベルまで上達。おかげで就活でもその点を評価してもらえました。

井上 米国で働く自信を得たことが大きな変化でした。現在は米国の大学院に進学して日米関係なく教育関係の仕事に従事したいと考えています。留学はあらゆる面で自分の視野を広げる大きなチャンスなので、後輩の皆さんに自信を持って勧めたいですね。

山内・前山 同感です!